

奄美地域のサトイモ栽培における灌水及び施肥技術

植付け時10mm, 出芽期以降10~20mm/週の灌水で増収, 施肥は基肥に肥効調節型窒素を追加または追肥で増収

背景・目的

- ・奄美地域では, 大規模な畑地かんがい施設を整備中で, 品目毎の効果的な水利用技術の確立が求められている
- ・サトイモは水利用による増収が期待され推進品目に位置づけられているが, 灌水技術は未確立
- ・サトイモの灌水技術と, それに伴う施肥技術を確立する

成果の内容

- ・植付け時の10mm灌水で, 出芽までの日数が1か月程度短縮(図1)
- ・出芽期以降は週に1回, 10~20mmの灌水で増収(図2, 3)
- ・週1回20mm灌水の場合, 慣行の基肥に肥効調節型窒素を加えるか, 3月中~下旬に追肥をすることで増収する(図4)

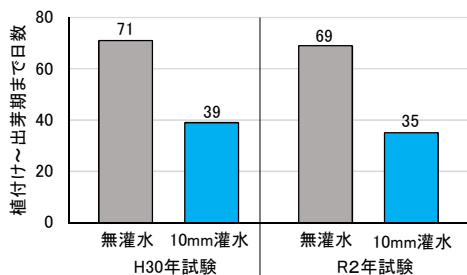


図1 植付け時の灌水の効果

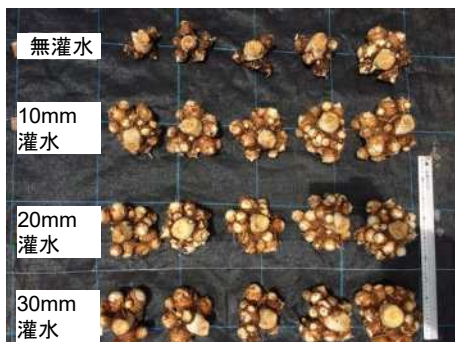


図3 収穫時のものの着生状況

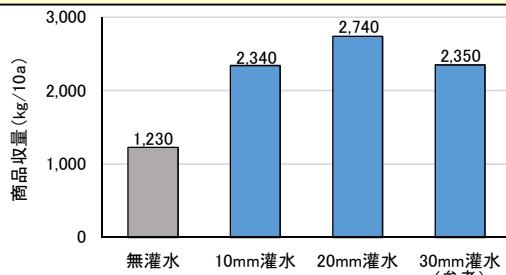


図2 栽培期間中の灌水の効果

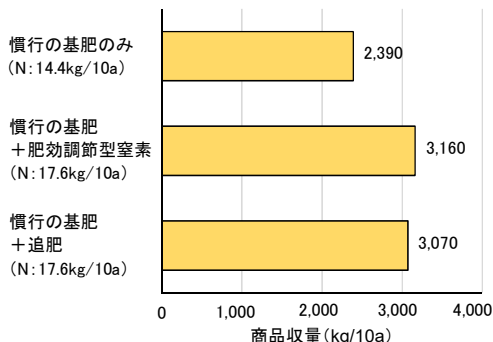
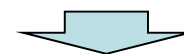


図4 窒素肥料増肥の効果

期待される効果

○畑かんの利用と効果的な窒素施用によりサトイモの単収が向上



農家所得の向上



サトイモの栽培ほ場

○普及対象・範囲 奄美地域のサトイモ生産者

鹿児島県農業開発総合センター
徳之島支場園芸土壌研究室